夏への扉

ロバート・A・ハインライン　/　福島正実　訳　/　出版：早川書房

ぼくの飼っている猫のピートは、冬になるときまって夏への扉を探しはじめる。家にあるいくつものドアのどれかひとつが、夏に通じていると固く信じているのだ。1970 年 12 月 3 日、かくいうぼくも、夏への扉を探していた。最愛の恋人に裏切られ、生命から二番目に大切な発明までだましとられたぼくの心は、12 月の空同様に凍てついていたのだ。そんな時、「冷凍睡眠保険」のネオンサインにひきよせられて…

本格的な SF 小説でありながら**ロマンチックなラブストーリー**であり、幅広い世代に愛される小説です。ぜひこの夏、この本とともにロマンチックな時間旅を楽しんでみてください！

（表紙の画像は出版社の許諾を得て掲載しています）

旧暦の 7 月は「文月（ふみつき）」

由来には諸説あるのですが、現在、定説とされているのは**七夕の行事**にちなんだもの。
短冊に歌や文字を書いて、書道の上達を祈った行事にちなみ、「文披月（ふみひらづき）」と呼ばれていたものが転じて文月となったという説**です。**

もう一つ、穂が見えるようになる季節であるということから「穂見月（ほみづき）」が由来という説も。
どちらも「7 月」らしさがあるわけではないのでちょっと覚えにくいですね。